

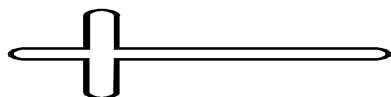


独立行政法人 国立国語研究所

第30回「ことば」フォーラム

後援：朝日新聞社・NHK放送文化研究所・立川市

日本語の中の外来語と外国語 —新聞，雑誌，テレビ—



平成19年2月24日（土） 国語研究所 講堂

1時30分

< あいさつ・趣旨説明 >

新聞記事の外来語

福田 亮（朝日新聞社）

（30分）

雑誌に見られる外来語と外国語

伊藤 雅光（国立国語研究所）

（30分）

テレビ・ラジオにおける外来語の過去と現在

塩田 雄大（NHK放送文化研究所）

（30分）

< 休憩 15分 >

3時30分

【ディスカッション】・・・日本語の中の外来語と外国語

福田 亮

塩田 雄大

伊藤 雅光（司会）

< 4時30分 終了 >

☆ 質問は，同封の「質問票」に記入して，休憩時に係にお渡しください。

☆ ロビーで，刊行物の展示と販売をおこなっています。

☆ お帰りの際，同封の「アンケート」に御協力ください。

発表者紹介

福田 亮（ふくだ りょう）朝日新聞東京本社校閲センター次長・用語幹事補佐

1983年に朝日新聞社に入り、主に新聞の校閲作業に従事。

99年から「朝日新聞の用語の手引」の編集に携わる。2003年から現職。

日本新聞協会の新聞用語懇談会委員として「新聞用語集 2007年版」の編集に参加。

国立国語研究所「外来語」委員会・委員。

伊藤 雅光（いとう まさみつ）国立国語研究所情報資料部門・文献情報グループ長

政策研究大学院大学客員教授を兼職

北海道教育大学教育学部助教授を経て、現職。その間、文部省情報処理関係内地研究員として筑波大学学術情報処理センターへ、また外地研究員として英国ノッティンガム大学大学院へ派遣され、計量言語学と自然言語処理とを修める。計量国語学(会)、国語学(会)、日本語学会、語彙辞書研究会、日本語科学など、各学会・査読誌の編集委員（長）や学会役員を併任。専門分野は計量言語学、日本語学、国語学、自然言語処理。

著書に『計量言語学入門』（大修館書店）、『朝倉日本語講座 第四巻 語彙・意味』（共著、朝倉書店）、『日本語辞書学の構築』（共著、おうふう）、” Quantitative Linguistik / Ein internationales Handbuch,” Walter de Gruyter GmbH & Co. KG などがある。

塩田 雄大（しおだ たけひろ）NHK放送文化研究所メディア研究部・放送用語班

専任研究員 NHK大阪放送局勤務を経て現職。

放送で用いる日本語の方針立案・策定に関連する言語研究を担当している。

主な著書・共著に、『つかいこなせば豊かな日本語』（NHK出版）、『展望 現代の方言』（白帝社）などがある。専門分野は、近現代日本語史、語彙論、社会言語学など。

新聞記事の外来語

福田 亮（朝日新聞社）

■「朝日新聞の用語の手引」現行版の記述

外来語の書き方

外来語・外国語は乱用しないように注意する。新しい概念で適当な言い換えのないものや、専門語で分かりにくいものは、その下にカッコし、短い説明を入れるか、記事の末尾に＜注＞として説明を入れるなど工夫すること。

■紙面での使用実態

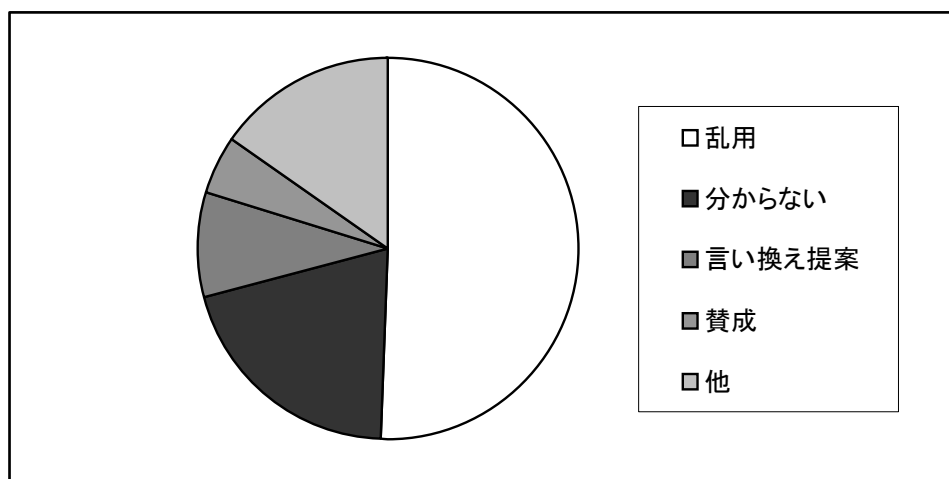
・2月1～7日の朝刊1面ニュース記事にあらわれた外来語・カタカナ表記語

・ニュース記事計30項目・約2350行で延べ292回（約8行に1回登場）

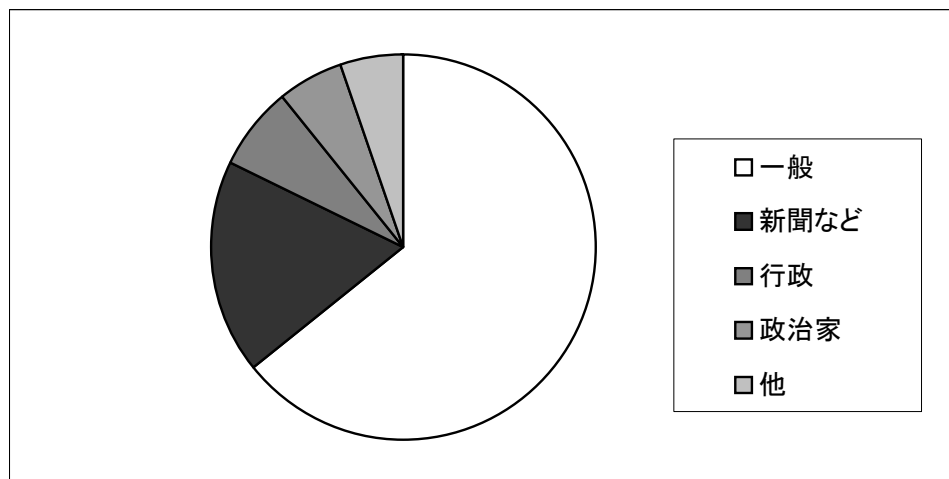
A（68語、延べ175回） 地の文で説明なく使用	インターネット、エアコン、エイズ、エコー、（省）エネ、エネルギー、オフィスビル、カーブ、ガイドライン、ガス、ガソリン、カメラ、カメラマン、キロ、クラス、クリア、クレジットカード、ケース、コスト、コメント、コンビニ、コンピューター、サービス、シュークリーム、ショッピングセンター、スーパー、スタート、スタッフ、セット、ゼネコン、ゼロ、センチ、ディーゼル、データ、テレビ、テロ、トラック、トラブル、ドル、トン、ハード（面）、パート、パイプ、ハイブリッド、パソコン、フォロー、フリーター、プリン、ベース、ヘリコプター、ベンチャー、ポイント、ホームヘルプ、ホール、ポリエチレン、ポンプ、マイナス、マニュアル、メーカー、メートル、メーン、メディア、ライトアップ、リース、リーダーシップ、リスク、リストラ、リットル
B（10語、延べ19回） 説明付き、かっこ付きで使用	アスベスト（石綿）、「犯罪収益移転防止法（通称・ゲートキーパー＜門番＞法）案」、「サービス残業」、生き残るための方法を探る「サバイバルファクター」の調査、国立高度専門医療センター、「再チャレンジ」支援策、一定の条件を満たす労働者を労働時間規制の対象外とする「ホワイトカラー・エグゼンプション」（WE）、マネーロンダリング（資金洗浄）、マンモグラフィー（乳房X線撮影）、「ワーキングプア」
C（43語、延べ97回） 固有名詞	アフガニスタン、アルカイダ、イスラム、イラク、インド、省エネ法、…エネルギー…（組織名）、カイロ、…ガス（社名）、カルロス・ゴーン、キプロス、キルクーク、クリントン、…グループ（部署名）、サドリヤ、サドルシティ、シーア、…ジャパン（社名）、ジョエル・ウィット、シリア、スンニ、ゼネラルエディター、ゼネラルマネジャー、…センター（部署名）、チグリス、デビッド・オルブライト、トルコ、ニューデリー、…ネットワーク（組織名）、ノルウェー、バグダッド、ヒル、フセイン、ブッシュ、ブラックホーク、ベトナム、ベルリン、…マネジャー（役職）、マリキ、マルタ、リビア、ルノー、ロイター、ワシントン

■読者の意見（00年以降の「声」欄で「外来語」「カタカナ語」にふれた投書 80 件から）

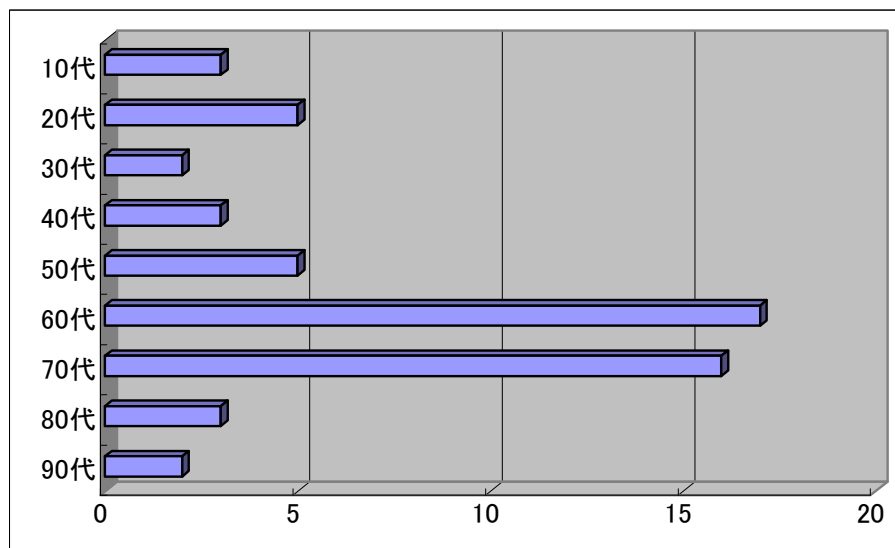
・「乱用されている、分からない語がある」など「不満」が3分の2



・「不満」の対象



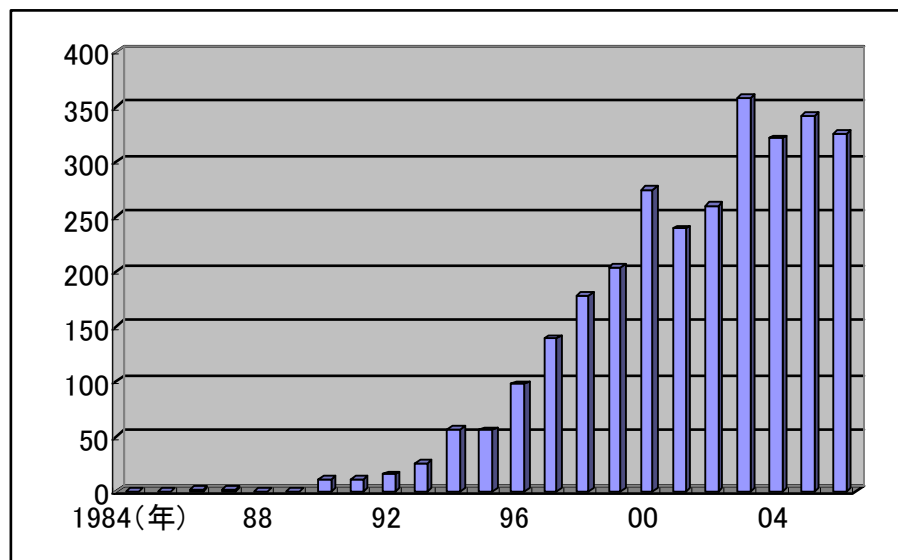
・年代分布



■新語・新用法が定着するまで

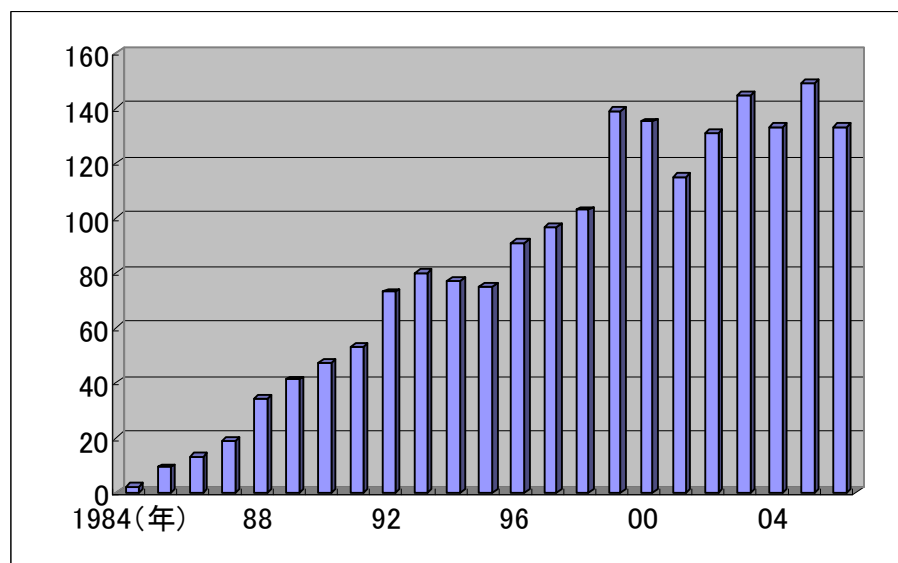
・コンビニ

朝日記事データベース（東京版・本紙）の初出は 86 年（80 年代は「コンビニ店」が大半）



その他の初出年：インターネット（88年）、エイズ（84年9月）、ゼネコン（85年）、ハイブリッド車（91年）、フリーター（86年）、ライトアップ（86年）、リストラ（85年）

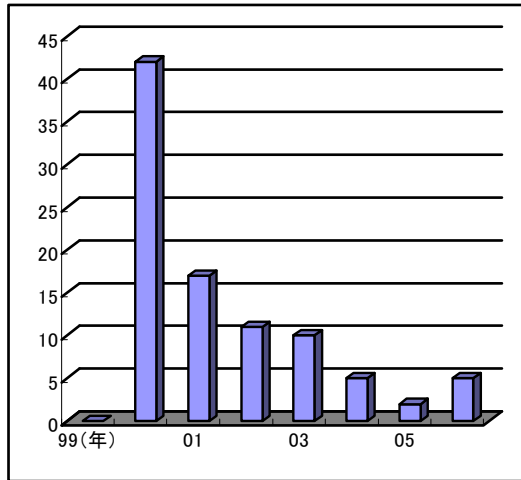
・クリアする



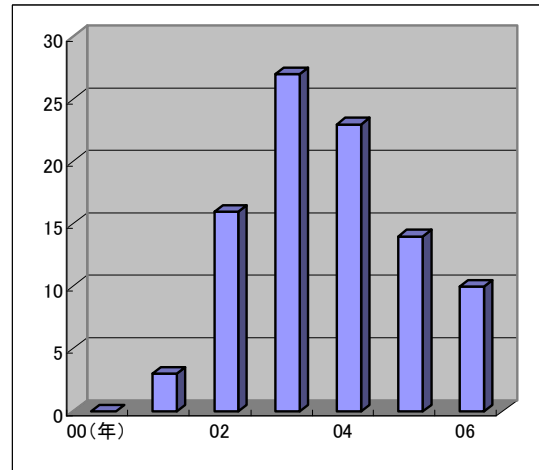
フォローする：84年2件→06年68件

■現れては消えていく新語

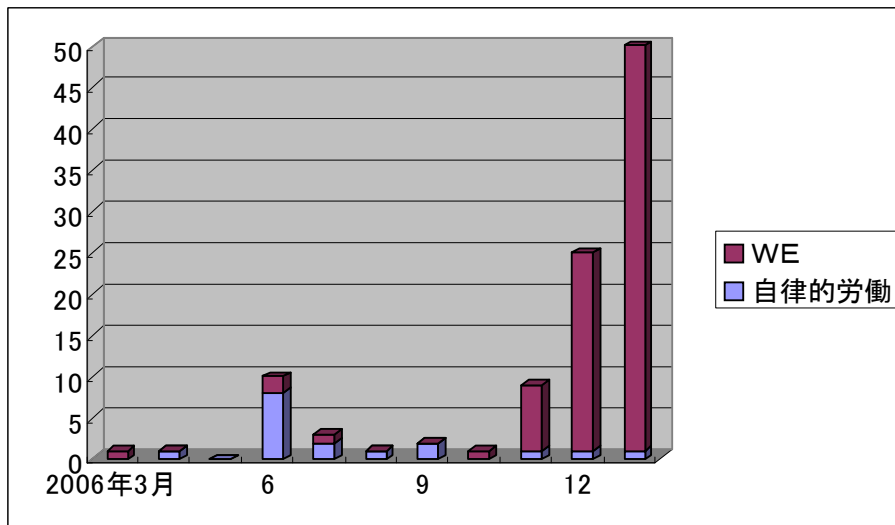
・デジタルデバイド



・トレーサビリティ



・「ホワイトカラー・エグゼンプション」



- 05 年 6 月 日本経団連が日本版制度の導入提言
- 06 年 3 月 朝日記事に初出（1 件）
- 06 年 4 月 「自律的労働時間制度」で初出（1 件）
- 06 年 6 月 労働法制見直しの中間報告に労使双方が異論、見送りへ
- 06 年 7 月 見出しで「残業代ゼロ」初出、このころまで「キーワード」で解説も
- 06 年 11 月 厚労省が新素案。「一定の年収以上の会社員を労働時間規制から外す自律的労働時間制度（ホワイトカラー・エグゼンプション）」を「自由度の高い働き方にふさわしい制度」と名称変更
- 06 年 12 月 「一定条件を満たした会社員が 1 日 8 時間の労働時間規制から外れ、残業代を払う必要がなくなる」など「残業代ゼロ」への言及が一般化、見出しも「残業代ゼロ」が定着
- 07 年 1 月 通常国会への法案提出断念の方針

■朝日新聞の外来語使用に対する態度

- ・表記方法についての言及が中心
- ・乱用を戒める記述（冒頭の「外来語の書き方」）は74年版以降

・1931年6月・朝日新聞社報

規格の統一、能率増進の産業合理化なら、能率増進上新聞記事編輯にも用字の統一が甚だ必要であることは當然であります。それで編輯局の調査會で研究した結果を爾後毎月「社報」に掲出して本社の用字例を定め、即日から嚴重に勵行することにしました。原稿作成、編輯、校正の際厳守せられるようお願いひます（括弧内は用ひず）

本社用字例

刀の目貫（目抜）
 腦震蕩（腦震盪）
 滯納（急納） 零細（零碎）
 非難（批難） 注文（註文）
 兵兒帶（兵子帶）
 君が代（君ヶ代）
 道連（道伴或は途伴）
 サウエート（ソウエート）
 ロサンゼルス
 （ロスアンゼルス）

ゼネヴァ（ジュネーブ）
 オーストリア
 （オーストリー、オーストリア）
 フイラデルフィア
 （ヒラデルヒヤ或はフィニデルフィヤ）
 フイリツピン
 （ヒリツピン）
 シペリア（シベリヤ）
 アジア（アジヤ）
 モスクワ（モスコ）
 シアトル（シャトル）
 ギリシア（ギリシャ）

・1943年「朝日新聞 用字用語例」

外國地名・人名の書き方

外國の地名、人名、外來語などを讀易くするために、片仮名で書く場合に限り、その促音、拗音のツやヤなどを、右寄りに○の中に入れて書き、小文字で印刷する。しかし外國の地名、人名、外來語といへども平仮名で書く場合、または普通文章の中の促音、拗音、例へばニツボン、ラツバ、シユツ、ピカツ、ビユンなどの場合、ツやユは小文字にしない。

右寄りに○に入れて書く（小文字印刷）場合の用例を左に示す。

ア	ファッショ	フーヴァ			
イ	(キ) フリップ	オフィス	フィルム		
エ	(エ) ウェーヴェル	シェバード			
オ	(チ) フォード	ウオロシローフ			
ツ		カルカッタ	ヨット	マツチ	
ヤ		チャール	ジャム	ギヤング	
ユ		ニユーギニア	キュービー	コンミユニケ	
ヨ		オリョール	インフレーション		

雑誌に見られる外来語と外国語

伊藤雅光（国立国語研究所）

0. はじめに

国立国語研究所では、1948年の創設以来、現代語の実態を把握するために計量的な方法を用いて、マスメディアを中心に用語調査（語彙調査）を行ってきた。

表1 国立国語研究所の語彙調査

調査資料（期間）	延べ語数	異なり語数
(1) 朝日新聞（1949. 6, 1ヶ月分）	24万	1.5万
(2) 婦人雑誌（1950, 1年分）	15万	2.7万
(3) 郵便報知（1877. 11, 10日分）	10万	2.8万
(4) 総合雑誌（1953. 7, 1年分）	23万	2.3万
◎(5) 雑誌90種（1956, 1年分）	53万	4.0万
(6) 新聞3誌（1966, 1年分）	300万	21.3万
(7) 高校教科書（1974, 年度, 理社）	59万	1.6万
(8) 中学校教科書（1980, 年度, 理社）	25万	1.8万
(9) テレビ放送（1989. 4, 2ヶ月）	14万	2.6万
◎(10) 雑誌70種（1994, 1年分）	106万	5.9万

* 林(1982), 山崎(2005)

(参考資料)

調査資料（期間）	延べ語数	異なり語数
(0) Jポップ（1973-2004, 松任谷由実）	3万	0.5万

* 伊藤(2003)

1. 計量的な調査とは何か

1. 1 延べ語数と異なり語数とは何か

- (1) 北原白秋の「ペチカ」を題材にして簡単な語彙調査を行ってみる。まず文節ごとに区切るとつぎのようになる。なお、ここでは自立語だけを数えるので、助詞や助動詞のような付属語は無視する。
雪の／ふる／夜は／たのしい／ペチカ／ペチカ／燃えろよ／お話／しましょ／むかし／むかしよ／燃えろよ／ペチカ／
- (2) 文節には必ず自立語が一つ入っているので、文節数を数えれば、それが自立語の数ということになる。この歌詞の場合は、13個の自立語が使われている。
- (3) このように、個々の自立語が同じ単語かどうかにかかわらず、どの単語も同じように一つ二つと数えることを「延べ」で数えるという。そして、そのようにして数えた単語の総数を延べ語数という。
- (4) 単語の数え方はもう一つある。それは、単語の種類を数えるという方法である。たとえば、「むかし／むかしよ／」という二つの文節の自立語は、どちらも「むかし」という名詞だけなので、単語の種類という観点からは一つと数えるのである。「むかし」以外の自立語としては、「雪・ふる・夜・たのしい・ペチカ・燃えろ・話・し（ましょ）」が使われている。結局、この方法で数えると、この歌詞は全部で9個の単語が使われているということになる。このようにして数えた単語の総数を

異なり語数という。(伊藤 2002)

1. 2 語彙表と語種構成比率

(1) 語彙表はあるテキストのなかで使われている単語のリストである。各単語がそのテキストで何回使われているかという度数やその使用率、語種などが記載されている。

(2) 表2の語種以降の列をみると、「ペチカ」では延べで外来語が3回、和語が10回使用されており、異なりで、外来語が1回、和語が8回使用されていることがわかる。

(3) 和語や外来語などの語種の使用率を語種構成比率という。

表2 「ペチカ」の語彙表・使用率順

順位	見出し語	語種	度数	使用率
1	ペチカ	外来語	3	23.0
2	むかし	和語	2	15.4
3	燃える	和語	2	15.4
4	する	和語	1	7.7
5	たのしい	和語	1	7.7
6	お話	和語	1	7.7
7	降る	和語	1	7.7
8	雪	和語	1	7.7
9	夜	和語	1	7.7

表3 「ペチカ」の語種構成比率

	延べ語数(%)	異なり語数
和語	10 (77.0 %)	8 (88.9 %)
外来語	3 (23.0 %)	1 (11.1 %)

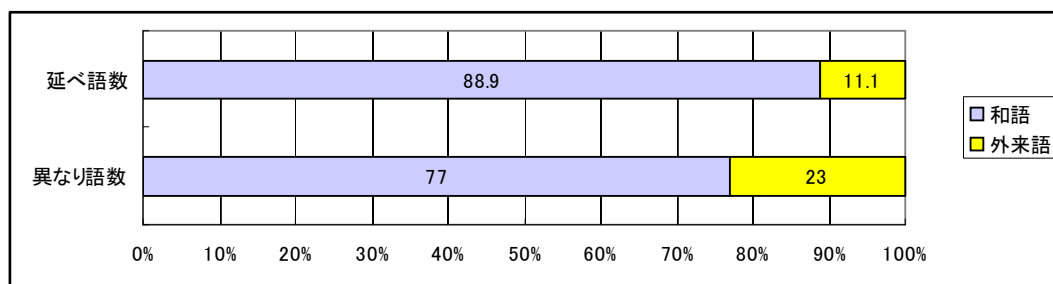


図1 「ペチカ」の語種構成比率

2. 1980年代までの新聞・雑誌・テレビ・教科書の語彙調査 —外来語の量的性格—

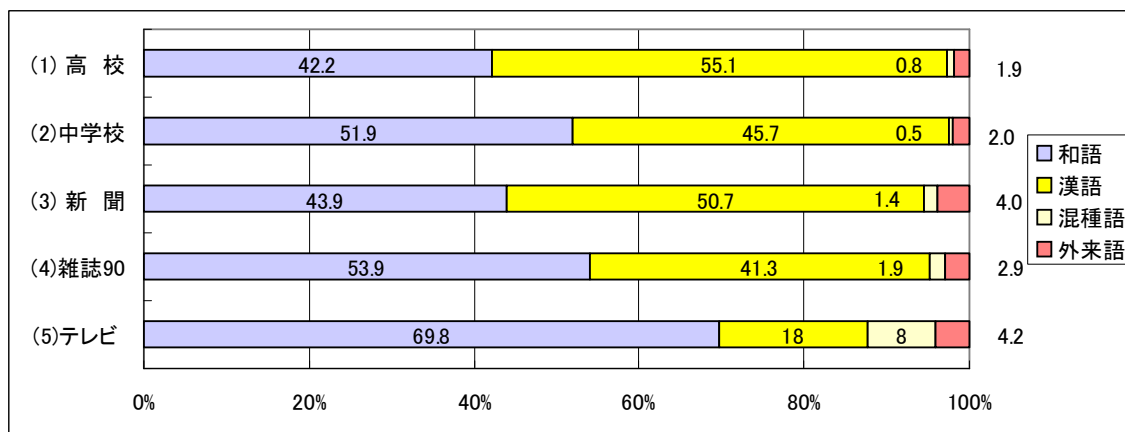


図2 新聞・雑誌・テレビ・教科書の語彙調査 (延べ語数)

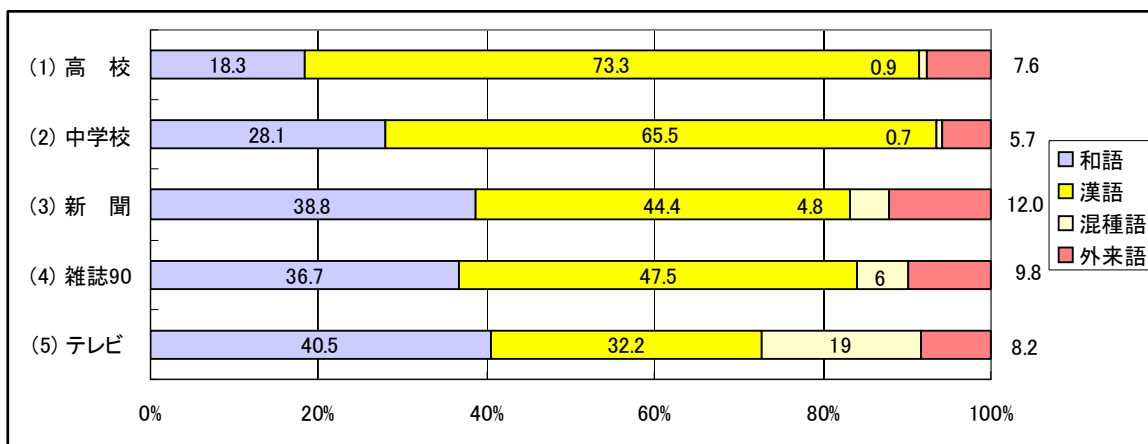


図3 新聞・雑誌・テレビ・教科書の語彙調査（異なり語数）

- (1) 図2から、どの資料においても外来語は延べ語数では3%前後を占めていることがわかる。
- (2) 図3から、どの資料においても外来語は異なり語数では7%前後を占めていることがわかる。
- (3) 以上のように、異なり語数に比べて延べ語数が少なくなるのは、単語の種類は多いが、それぞれの単語の使用度数が低いことを意味している。
- (4) 和語では反対に、延べ語数が多く、異なり語数が少ない。これは単語の種類は少ないが、それぞれの単語の使用度数が多いことを意味している。
- (5) 漢語は和語よりも外来語に近い性格をもっている。

【まとめ】 外来語の量的性格

外来語は延べ語数では3%前後であるのに対し、異なり語数では7%前後占めている。このことは、外来語は、種類は多いが、それぞれの外来語の使用度数は少ないことを意味している。

3. 語種と使用率

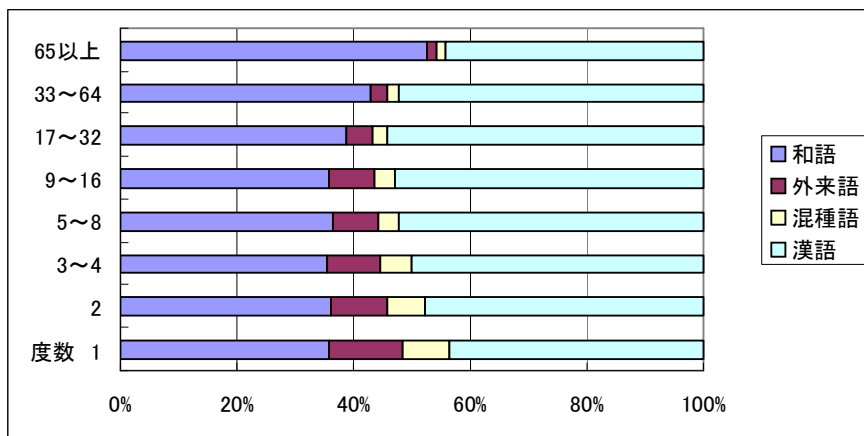


図4 度数別にみた語種構成比率（異なり語数）・雑誌90種

- (1) 雑誌90種の語彙を度数の大小を基準にして八つのグループにわけ、それぞれで語種の使用率を計算してグラフにしたのが図4である。
- (2) 上にいくほど度数の大きいグループの語種構成比率を表し、下にいくほど度数の小さいグループの語種構成比率を表す。

- (3) 和語と漢語は度数が高いグループになるにしたがって、比率が大きくなっていく。
- (4) 反対に外来語と混種語は度数が低いグループになるにしたがって、比率が大きくなっていく。

【まとめ】語種と使用率

使用率の大きい語には、和語と漢語が多く、使用率が小さくなるにつれて外来語と混種語が占める比率が大きくなる。

4. 基本的な語

- (1) 表4は雑誌90種のデータから助詞・助動詞を省いた延べ438135語、異なり39930語について、延べ語数と異なり語数との関係についてまとめたものである。
- (2) 使用率順の語彙表に基づいて、異なり語数のうち上位何語までで延べ語数の何%を占めるかを簡単に読み取ることができる。
- (3) 延べ語数の60%はわずか1000語のよく使われる単語が占めることがわかる。さらに、よく使われる単語を、上から順に1万語としてみると、それだけで延べ全体の90%以上の約40万2千語を占めることもわかる。
- (4) 表5は雑誌90種の上位25語までの語彙表である。和語と漢語だけで占められており、また、どのような文章でも高い頻度で使われる見出し語ばかりであることがわかる。

【まとめ】基本的な語

文章中の延べ語数の大部分を占める見出し語は、使用率の大きい少数の基本的な語である。そのほとんどはどのような文章でもよく使われる和語と漢語で占められている。このような文章の骨格を作る基本的な見出し語のグループを基本語彙という。

5. 外来語はなぜ多いと感じられるのか

これまで見てきたとおり、結局、日本語の文章においては、たくさんの和語や漢語のなかで、少数の外来語が使われているということがわかった。それにも関わらず、外来語はなぜ多いと感じられ、氾濫していると言われるのか。

5. 1 目立つ部分に使われる外来語

「多くの人が外来語は氾濫状態にあるという印象を抱いているが、この印象を生じるのは、主として街頭の看板、広告、店名、商品名、映画や放送番組の題名等々であって、必ずしも雑誌や新聞では — 少なくともその全体では — ない。それに、外来語は通常カタカナやアルファベットで書かれるが、これがまた外来語の存在を強調し、外来語を実際以上に目立たせる効果を有する。」石野博史（「外来語の問題」『岩波講座・日本語(3)』1977)

5. 2 キーワードとして使われる外来語

- (1) 基本語彙はどのような文章でもよく使われる和語や漢語でほぼ占められているが、このことは基本語彙がまるで空気のように、ごくありふれた、当たり前の存在として文章のなかで使われていることを意味している。つまり、基本語彙は文章のキーワードにはなりえないのである。
- (2) 「文章独自の内容を形作る要素となるものは、基本語彙ではなく、文章の内容に密接な関係を持ち、意味がはっきり限定された語、もしそれを取り去ったならば文章の意味が成立しなくなる語であり、これらの語は使用率が小さい語、名詞に多い」(樺島忠夫『日本語はどう変わるか』岩波新書、1981)

- (3) 外来語は、文章の中での使用度数は少ないが、語彙としての種類は多い。また、外来語のほとんどは名詞である。これらのことは、外来語がキーワードとして使われやすいことを意味している。
- (4) 多くのひらがなや漢字のなかで使われる少数のカタカナで書かれた外来語のキーワードは目立つだけではなく、記憶に残りやすい。

表 4 異なり語数と延べ語数との関係
(雑誌 90 種)

異なり語数	延べ語数に占める割合	延べ語数の伸び
上位 5 語まで	8. 40%	
◎ 10 "	12. 30%	約 5. 4 万
25 "	19. 40%	
50 "	25. 90%	
100 "	32. 90%	約 14. 4 万
200 "	40. 50%	
300 "	45. 30%	
500 "	51. 50%	約 22. 6 万
750 "	56. 70%	
1000 "	60. 50%	約 26. 5 万
1500 "	66. 10%	
2000 "	70. 00%	約 30. 1 万
2500 "	72. 80%	
3000 "	75. 30%	約 32. 2 万
3500 "	77. 30%	
5000 "	81. 70%	約 35. 8 万
7000 "	85. 50%	
10000 "	91. 70%	約 40. 2 万
～	～	～
39930 "	100. 00%	438135

表 5 雑誌 90 種の高頻度語のリスト

異なり語数	見出し語	語種	延べに占める割合	度数	延べの伸び
1	する	和	3. 0	13234	13234
2	いる	和	4. 8	7557	20791
3	いう	和	6. 2	6147	26938
4	いち(一)	漢	7. 3	4920	31858
◎5	こと	和	8. 4	4731	36589
6	なる	和	9. 4	4122	40711
7	れる・られる	和	10. 2	3521	44232
8	ある	和	10. 9	3160	47392
9	に(二)	漢	11. 6	3155	50547
◎10	その	和	12. 3	3084	53631
11	もの	和	13. 0	2927	56558
12	じゅう(十)	漢	13. 6	2788	59346
13	よう(様)	漢	14. 3	2775	62121
14	さん(三)	漢	14. 8	2445	64566
15	この	和	15. 4	2283	66849
16	それ	和	15. 9	2172	69021
17	ご(五)	漢	16. 4	2126	71147
18	お(御)	和	16. 8	2049	73196
19	ない	和	17. 3	1892	75088
20	くる	和	17. 7	1833	76921
21	にじゅう(20)	漢	18. 1	1633	78554
22	これ	和	18. 4	1619	80173
23	よい	和	18. 8	1601	81774
24	わたくし	和	19. 2	1585	83359
25	さん(接尾)	和	19. 5	1517	84876

6. 1950年代と1990年代の雑誌に見られる外来語と外国語 — 40年間の変化 —

6. 1 延べ語数における雑誌データ分析

- (1) 1990年代の雑誌70誌の調査では、本文だけではなく広告も調査対象としたが、1950年代の雑誌90種では本文しか対象としていない。そこで、ここでは本文と広告のデータは分けて扱うことにする。
- (2) 図5の「①90種・本文」と「②70誌・本文」から、延べ語数ではこの40年間で外来語が2.7%から8.0%へと3倍弱、外国語が2.0%から2.6%へと1.3倍増加している。外来語の延べ語数の伸びが著しい。
- (3) また、比率が下がったのは和語だけでその他の語種はみな増加している点は興味ぶかい。その他の語種はほとんどが名詞であることから、専門語やキーワードが多くなったことが推測される。
- (4) その傾向がさらに強く表れているのが、「③70誌・広告」である。和語が極端に少なく、その他の語種の多さがめだつ。

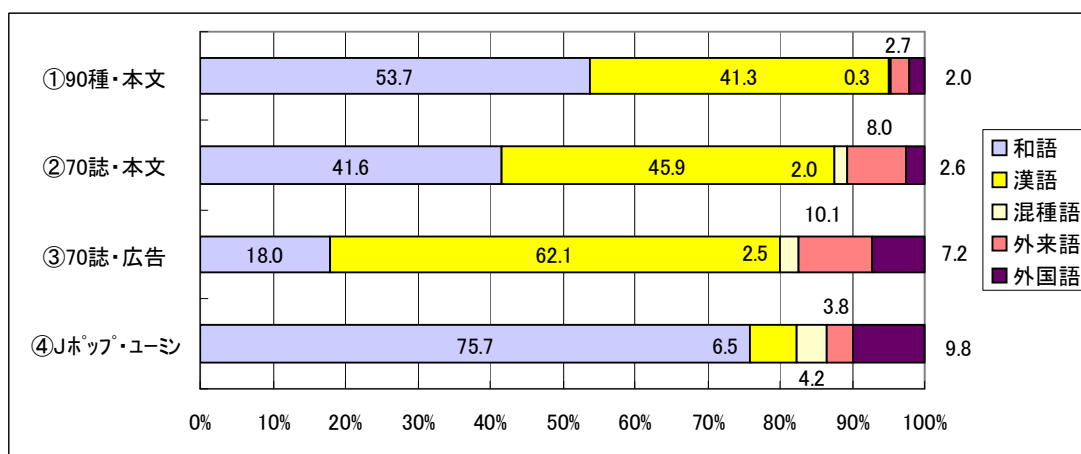


図5 新旧雑誌の語種構成比率（延べ語数）

6. 2 異なり語数における雑誌データ分析

- (1) 図6の「①90種・本文」と「②70誌・本文」から、異なり語数では外来語が9.2%から24.7%へと3倍弱、外国語が0.7%から6.8%へと実に10倍弱も増加している。外国語の異なり語数の伸びは驚異的である。
- (2) 外来語が24.7%に増加したことにより、和語の27.0%とほぼ肩を並べ、また漢語の35.2%とは10%ほどの差しかなくなり、語彙の語種構成比率が大きく変化したことがわかる。この点、外来語と外国語はこの40年間で激増したといってよい。
- (3) 広告では和語、漢語、混種語が本文よりも比率が小さなっているのに対し、外来語と外国語の増加が目立つ。とりわけ、外来語が和語よりも10%も多いという点に広告の特異性がうかがわれる。

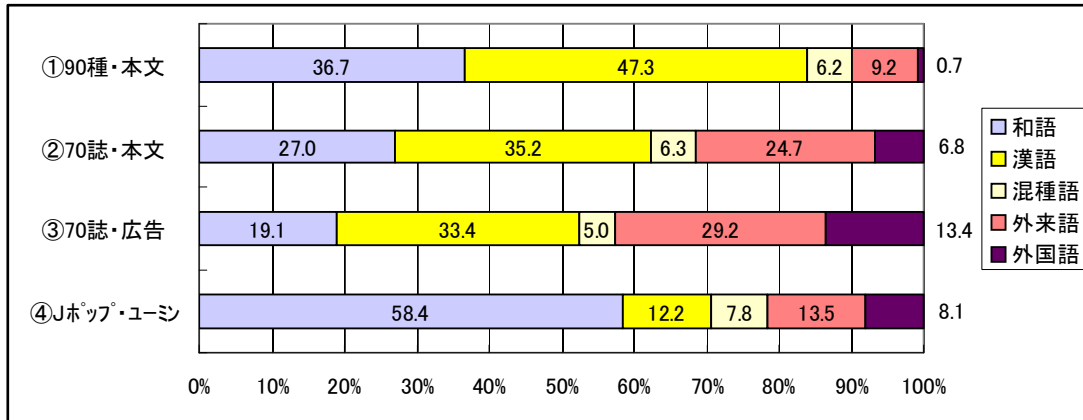


図6 新旧雑誌の語種構成比率（異なり語数）

6. 3 外来語激増時代における外国語の位置

- (1) 1990年代に入ると外来語は和語や漢語と肩を並べるくらいにまで激増しており、1980年代までの状況とくらべると、日本語の文章のなかでは外来語がかえって目立たなくなっている。
- (2) そのようななかで、キーワードを目立たせようとすれば、あとはアルファベット語あるいは外国語を使うしか方法はなくなる。
- (3) 1990年代に入って、外国語の使用が増えてきた背景にはそのような事情も一因になっていると推測される。

6. 4 将来、外来語と外国語はどうなるか

- (1) 将来の外来語と外国語の状況を予測するうえでは、Jポップにおける語種構成比率が参考になる。図5の「④Jポップ・ユーミン」では外国語が外来語の2.5倍も使われていることがわかる。
- (2) 新鮮なイメージがあった外来語でも多用されることによって、陳腐化がはじまるため、さらなる新鮮さを求めて外国語を多用するようになったものと推測される。
- (3) Jポップは韻文で、しかも「目立っているテキスト」なので、その結果をそのまま散文の資料に安易にあてはめることには注意が必要である。しかし、程度の違いはあっても、本質的には同じような変化が散文にも起こりうると考えている。

7. おわりに

21世紀初頭の現在は、国語問題として外来語の増加が注目され、マスメディアでも盛んに取り上げられている。しかし、世間が外来語に目を奪われている間に、外国語が日本語のテキストのなかで勢力を伸ばしつつあることが明らかになった。いまはまだ勢力としては微々たるものであるが、今後は日本語に少なからぬ影響を与えていく存在になり、おそらく、将来は外来語よりも外国語の方が国語問題の中心課題となっていくであろうと予想している。そのような未来の国語問題に対処していくうえでも、いまのうちに外国語の動向に目配りをしておいたほうがよいと考え、ことばフォーラムのテーマとして取り上げた次第である。

[参考文献]

- 石綿敏雄（1985）『日本語のなかの外国語』（岩波新書）
- 石綿敏雄（2001）『外来語の総合的研究』（東京堂出版）
- 伊藤雅光（2001）「ポップス系流行歌の語彙調査における外来語と外国語の判定基準」『計量国語学』第23巻第2号 110-130
- 伊藤雅光（2002）『計量言語学入門』（大修館書店）
- 伊藤雅光（2003）「歌謡曲の中の外来語・外国語」（月刊『日本語学』7, 22-8 明治書院）
- 国研資料集 2（1952）『語彙調査——現代新聞用語の1例』秀英出版
- 国研報告 4（1953）『婦人雑誌の用語—現代語の語彙調査』秀英出版
- 国研報告 12（1957, 1958）『総合雑誌の用語 前編, 後編』秀英出版
- 国研報告 15（1959）『明治初期の新聞用語』秀英出版
- 国研報告 21, 22, 25（1962～1964）『現代雑誌90種の用語用字 第1～3分冊』秀英出版
- 国研報告 37（1970）『電子計算機による新聞の語彙調査』秀英出版
- 国研報告 48（1973）『電子計算機による新聞の語彙調査（IV）』秀英出版
- 国研報告 76（1983）『高校教科書の語彙調査』秀英出版
- 国研報告 87（1986）『中学校教科書の語彙調査』秀英出版
- 国研報告 114（1997）『テレビ放送の語彙調査——語彙表』秀英出版
- 国研報告 128（2005）『現代雑誌の語彙調査 — 1994年発行70誌 —』国立国語研究所
- 林大監修, 宮島達夫他編（1982）『図説日本語』角川書店
- 山崎誠・小沼悦（2004）「現代雑誌における語種構成」（第10回言語処理学会ポスター発表要旨）
- 山崎誠（2005）「現代雑誌の語彙調査—ジャンルによる語の出現分布—」（語彙・辞書研究会, 第28回研究発表会要旨集）

テレビ・ラジオにおける外来語の過去と現在

塩田雄大（NHK放送文化研究所）

1 外来語だから「いけない」のか

放送（＝音声言語）における語彙上の主問題：

- 戦前 : 漢語 ← 耳で聞いてわかりにくい（同音異義語など）
積極的に言い換え
- 戦中 : 漢語 ← 耳で聞いてわかりにくい、手を加えにくい場合があった
外来語 ← 国粋主義的観点から言い換え
- 戦後 : 外来語 ← 社会環境の変化による増大
⇒ 漢語の「わかりにくさ」の問題（塩田雄大（1997））が見えにくくなった

外来語 : 本質的に「わかりにくい」のではなく、
「わかりにくい」ものである可能性が高い（塩田雄大（2003））

2 「外来語を使うべきかどうか」の判断の類型

「一語一語に対する指定」から「対象者・使用場面を意識した柔軟な方針提示」へ
（塩田雄大（2003））

2.1 個別規定方式

個々のカタカナ語について、これは放送で使ってよい、これはダメ、と個別に指定する方法

例）日本放送協会編（1953）『外来語集』

△ モーション	motion	E	[スポーツ] 動作
○ モーター	motor	E	電動機
× モーター・スクーター	motor-scooter	E	エンジンをつけた二輪車
○は 放送用語として適当と考えられるもの			
△は 専門用語として使う場合の外は避けたいもの			
×は 放送用語としてはなるべく避けたいもの			

2.2 理念提示方式

カタカナ語の使用について「なるべく使わないのが望ましい」という「理念」を掲げるもの

総体としてカタカナ語は使わないほうが望ましい、とした上で、個々の単語の使用可否については個人（番組制作担当者）に委ねる

例）日本放送協会総合放送文化研究所編（1983）『NHK放送用語集 -放送用語委員会決定事項-』

この外来語集には、放送でよく使われる外来語のうち、特にカナで書くさいに迷いやすいもの、表記が不統一なものを中心に収録した。（中略）

なお、外来語の使用について放送では次の点に注意する。

1. 日本語で十分に表現できる場合は、外来語を使わず日本語で言うことが望ましい。
2. 適当な言い換えのないものや、専門用語で一般にわかりにくいものは説明をつけて使う。
3. また、「カムフラージュする」のように、外来語に「する」の付いた動詞は、よく熟したことば以外は使わないようにする。

2.3 理解度・言い換え案提示方式

個々の外来語について、調査に基づく「理解度」を示した上で、言い換える場合にはこのような言い方がある、という「案」を提示するもの

調査に基づいた「理解度」を示すことによって、個々の単語を使うべきかどうかの判断基準（手がかり）を提供し、個人が「使わない」と判断した場合の言い換え案も提示

使用可否の判断、および言い換え案を採用するかどうかの判断は、あくまで発話者主体（個人・組織）に委ねられる

例）国立国語研究所の外来語言い換え案

「よく誤解されるんですが、言い換え提案は日本語の純粹さを守るとか、そういうことのためにやっているわけではありません。結果的にそういう面もあるかもしれないけれど、直接それを目指しているわけじゃない。現在生きている人たちが言葉の面で意思疎通をはかるのに困っているのであれば、それをなくすことの方がはるかに大事です。」

（相澤正夫（2006））

3 戦中から戦後にかけての外来語 ー扱い方の変化ー

◎『放送用語備要』(1940(昭15)年～1944(昭19)年)

放送におけるわかりやすさなどの面で問題となったことばを50音順に整理した、ラジオ放送担当者用の部内向け手引き書(約8,000項目掲載)

うち「言い換え語」が提示されている外来語は、以下の161項目

アーチ アイス・ホッケー アウト・ライン アグレマン アコーディオン
アド・バルーン アナウンサー アパート イデオロギー イニシアティヴ
インテリ(インテリゲンチア) インフレ/インフレーション
インフレーション ヴェーサーカ祭 エキスパート エス・オー・エス
エンジン オーバ(一) オーバ(一) コート オブザーバー
ガス・マスク ガソリン・カー カヌー カバー カムフラージュ
カメラ・マン カリパピ カルテル カロリー キー・ポイント
ギャップ グラ(ウ)ンド グライダー クライマックス
グループ クレジット ゲリラ コース コーラス ゴール
ゴール・イン コミンテルン ゴム・タイヤ コンクール
コンディション コンマ コンミュニケ サービス サイズ
サボタージュ サラリーマン サルタン シーズン
ジーゼル・エンジン シーツ シーン ジェスチュア
ジグザグ・コース システム シャープ・ペンシル ジャングル
ショーウィンドー ショップガール シンガポール スクラップ
スチール ステーツマンシップ ステートメント ステップ
ステップ スtock ストライキ スピード スプリング
スポークスマン スポーツ スムース スローガン
センセーショナル タイ・アップ タイトル ダイヤ
タッチ ダブル ダム チャーター テキスト テスト
デッキ デパート デパート・ガール デフレーション デマ
デモクラシー テロ トーチカ トップ トラクター
ナショナリズム ニュース パーセント パーター・システム
パーム・オイル パイロット パスポート バッジ
パラシュート バランス バリケード バルコニー
バンド(「堤防」) バンド(「帯」) ハンドブック パンフレット
ヒント ピント ファン ブイ フィナーレ プール
ブラス・バンド プラン フル・スピード フレッシュ
プレミアム ブローカー プログラム ブロック
ベークライト бойкотт бой霍尔 болшеви́зм
マーク メダル(メタル) メモ メロディー メンタル・テスト
メンバー モットー モラトリヤム ユニフォーム ライブラリー
ラウド・スピーカー ラジオ・ロケーター ラジオ・セット
ラッシュ・アワー ランチ リーダー リーダー リード
リーフレット リスト リヤ・カー リレー レコード
レセプション ローカル・ニュース ロータリー ロープ ロビー

◎『外来語集』（1953（昭28）年）

おもな外来語約 3,000 語について、放送での使い方の基準を次の三つに分けて示したもの

- …放送のことばとして適当と考えられるもの
- △…専門用語として使う場合のほかは避けたいもの
- ×…放送のことばとしてはなるべく避けたいもの

☆上記の 161 項目のうち、『外来語集』で「×」になっているもの

アウト・ライン オーバ（一）コート キー・ポイント ステートメント
 スムース ナショナリズム パスポート プラン フレッシュ
 ベークライト ボルシェヴィズム ライブラリー ラジオ・ロケーター
 スクラップ（×／○） [計 13.5 項目]

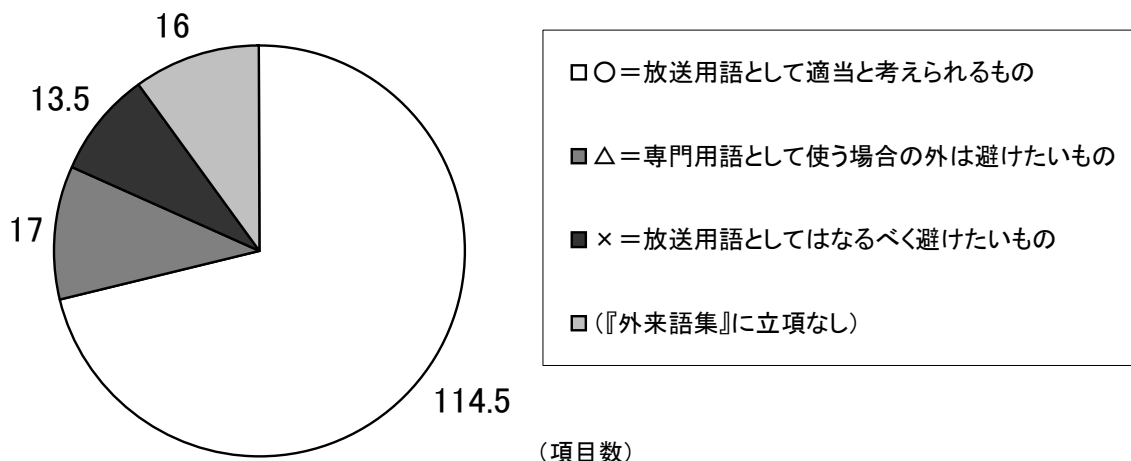
※「スクラップ」は『放送用語備要』では 1 項目だが、『外来語集』では
 × スクラップ くず鉄、新聞の切抜
 ○ スクラップ・ブック 切抜帖
 と別項目になっているため、0.5 項目とカウントした。

☆上記の 161 項目のうち、『外来語集』で「△」になっているもの

アイス・ホッケー アグレマン カルテル ゴール ゴール・イン
 コミンテルン スチール ステップ タッチ チャーター（船）
 バーター制 フィナーレ メンタル・テスト モラトリアム
 ラウド・スピーカー リーフレット ローカル・ニュース [計 17 項目]

☆上記の 161 項目のうち、『外来語集』で「○」になっているもの [114.5 項目]
 『外来語集』に掲載なし [16 項目]

『外来語集』における『放送用語備要』掲載外来語の扱い



⇒ 戦中には「言い換えが推奨」されていた外来語は、
戦後になるとほぼ3分の2が「放送でそのまま用いてもよい」ことになった

4 外来語表記の問題 —[-ei]を含む外来語の問題を例に—

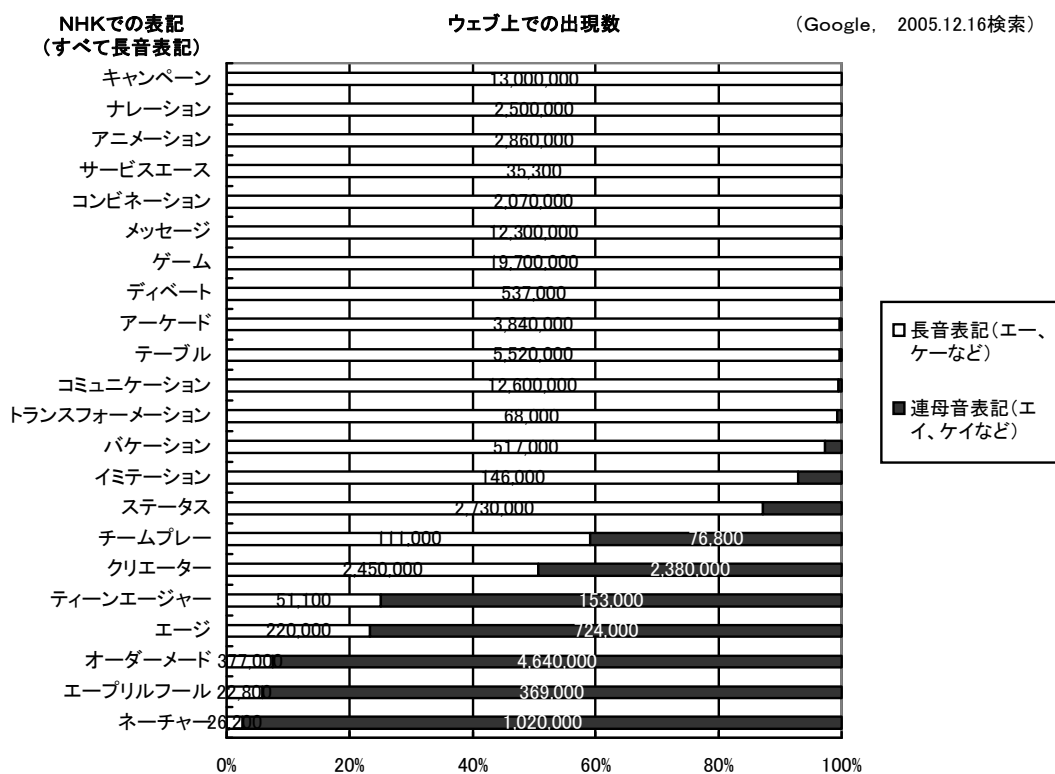
○[-ei]という音を含む外来語を日本語で書き表す際に、現在は

本則 : 「エー」「ケー」などのような
長音表記 (ex. ゲーム、メール)

個別の例外 : 「エイ」「ケイ」などのような
連母音表記 (ex. エイト、ペイ)

という原則でおこなっている。

○しかし近年、社会一般で後者の「連母音表記」が増えており、この原則について再度検討する必要が出てきている。



(塩田雄大 (2006))

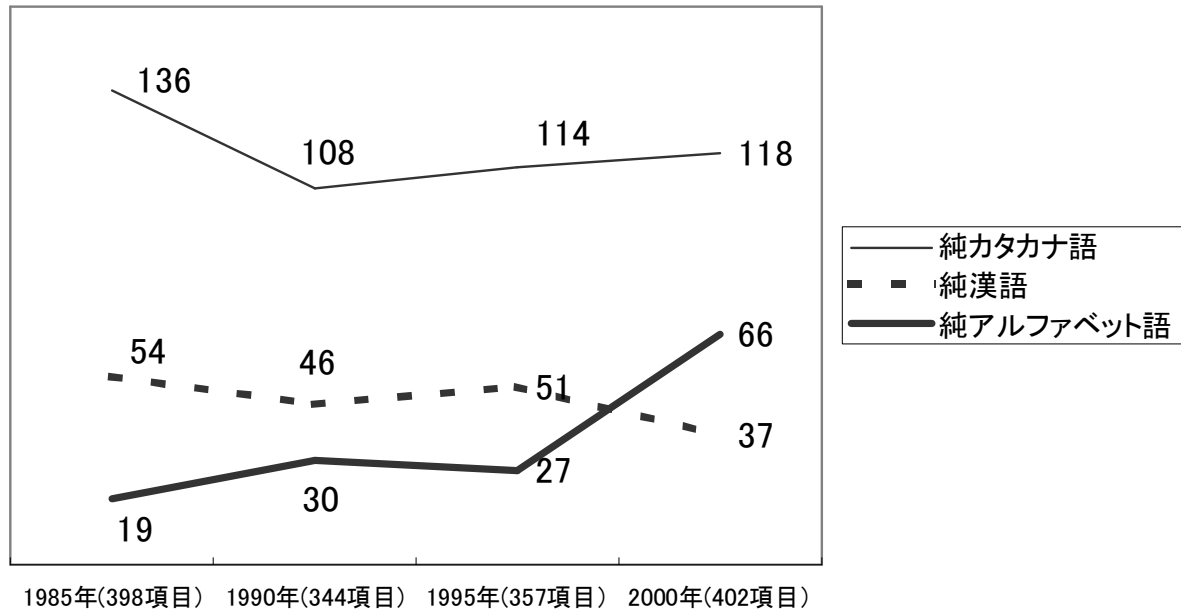
5 アルファベット語の問題

☆アルファベット語は「日本語」なのか？

1 day チケット cake set ￥400 tel ください etc. GWの計画
(井上史雄 (2006) に掲げられた例)

☆アルファベット表記語の増加 (塩田雄大 (2002))

コンピューター関連用語におけるアルファベット語の増加
(『現代用語の基礎知識』から)



☆発音上の問題

I A T A [アイエーティーエー (イアタとも)] 国際民間航空機関
F I F A [フィファ・フィーファ] 国際サッカー連盟
I S O 国際標準化機構 ×イソ

(NHK放送文化研究所編 (2006))

引用文献

- 相澤正夫 (2006) 「言いかえは意思疎通の手助け」『えくてびあん』Vol.25 No.265 2006.12
井上史雄 (2006) 「外来語の表記と発音の問題点 ―エイを中心に―」『明海日本語』10・11
NHK放送文化研究所編 (2006) 『NHKことばのハンドブック 第2版』日本放送出版協会
塩田雄大 (1997) 「テレビと専門用語」『日本語学』16(2)
塩田雄大 (2002) 「専門用語におけるアルファベット語の増加 ―『現代用語の基礎知識』にみる―」『情報知識学会誌』12(1)
塩田雄大 (2003) 「放送におけるカタカナ語の扱い」『語彙・辞書研究会 第24回研究発表会 予稿集』
塩田雄大 (2006) 「外来語の発音とカタカナ表記 ～[エイ・ケイ・セイ] などを中心に～」『放送研究と調査』第56巻3号